

# ひとりごと

## 「人生は一度きり」

ちょっと攻めたタイトルにしすぎたような気もしている。でも、引き返せない。いや、引き返さない。これが、私の生き方だから。

教員として働き始め、土日も出勤し、忙しい自分にどこか酔っている時期が確かにあった。そんなとき、一回り上の先輩から声をかけられた。「仕事が溜まっているのはわかる。自分もそうだ。でも、土日には【学校】以外のことを感じないとダメだ。学校のことしか知らない担任から、子どもたちは深みを感じるかな。」はっとした。すごくちっぽけな世界だけで生きてきた気がした。

その日から私はどれだけ仕事が溜まっても土日出勤を一切やめた。そうなるように、仕事の見通しをたて、平日で仕事の段取りをつけられるようにした。

休日は、とにかく色んな場所に出かけ、色んなものを見た。そこにはストイックに仕事に活かそうという考えはさらさらなく、「私」を創るための時間だったように思う。

「私」は、とにかくチャレンジがしたくなった。結果的にどうなるかよりも、やったことがないことはやってみたい、という好奇心がそれに近いかもしれない。そして、私は指導主事になった。そして、今文部科学省へ出向している。

よく周りの方から「どうしてそんなこと引き受けるの?」と聞かれることがある。「やってみないとわからないから。」と答える。理解はされないことが多い。でも、構わない。これは「私」の人生。誰かの人生を生きている暇はない。

先日、妻から「いい決断をしたね。」と言われた。「目の前に何か挑む価値があることが現れたときに、うちの子供たちはチャレンジする人になると思う。あなたがその姿を見せているから。」惚気るつもりはないが、最高の言葉だった。

しかし、私のチャレンジは実は闇雲でもない。特別な力を持ち合わせていなかった私が、尊敬する先輩方のような魅力的な先生になるため、私なりの経験値の積み上げ方なのだ。つまり、担任として教壇に戻りたいと真剣に思っている。

所属の教育委員会の方からも、「そんなキャリアパス、聞いたことがない。」と笑われる。私は全く気にならない。前例がなければ、むしろ私が前例になればいいし、誰もやったことがないから、やる価値があるようにも思う。もし教壇に戻れなかったとしても、チャレンジをした結果であれば、そこに後悔はない。戻りたいけれど。

内容を決める前にタイトルを書いたが何とかたどり着いた。一切、後悔はない。

(M.S)